

天埋力セテリア形 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しております。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。

ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線録板をご覧ください。

○本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

○専用のパネル（エアフィルタ組込）又はフィルタキット（天井リターン設置）を組み合わせて使用してください。

この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【警告】**、**【注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【警告】**欄にまとめて記載しています。しかし、**【注意】**欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「回記号」の意味は右のとおりです。○絶対に行わない ①必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認とともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくよう依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

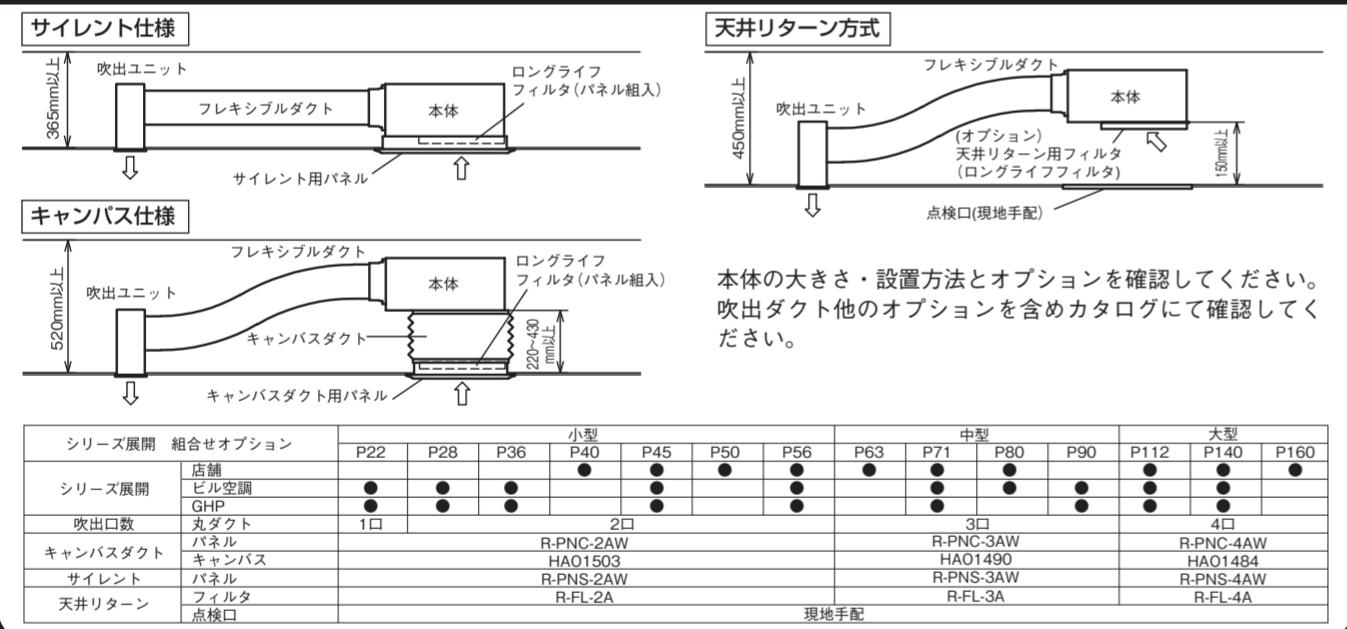
△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工作をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 小部屋に据付する場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13）
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一日冷媒が漏洩しても限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 当社指定の部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れる有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工作を行う。
- 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などを混入すると冷凍サイクル内が異常に高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力を伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れる有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と共に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はオウキシガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常に高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを開じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常に高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットにて「電源ブレーカー」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

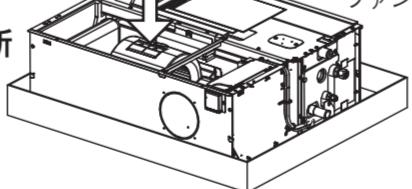
- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付ける。
漏電遮断器が取り付けていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
瓦斯ガスが室内ユニットの周囲に漏ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの軒落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波治療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器への影響を与える人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど
 - ・油の飛沫や蒸氣が多い所（理容場、機械工場など）
 - ・高周波を発生する機械を使用する所
 - ・海浜地区等塩分の多い所
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるが、その指示に従うこと。）
 - ・吸入口、吹出口に風の障害物がある所
 - ・强度が不十分で振動が発生する所
 - ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
 - ・高周波に影響される機器のある所（TV やビーチラジオ等の近傍）
 - ・ドレンの排水ができない所
 - ・性能や機能等に影響ををおぼす原因になります。
- アコスの下部には、漏れているものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニットへのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにたたった場合、ドレンパンなどに損傷（ビンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になります。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、財産などを濡らす原因になります。
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になります。
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）として、途山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露され、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れる、故障や発煙・発火の原因になります。
- 製品の運搬は十分注意を行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
- 棚包材の処理は確実に行う。
棚包材にケキなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管を素手で触れる、低温と高温になります。素手で触ると凍傷や、やけどになります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止しない。
火災や水漏れの原因になります。ファンが突然回り、ケガの原因になります。

設置方法



①据付の前に

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品

付属品収納場所
(梱包時)

付属品

| 本体吊り込み用 | 冷媒配管用 | | | ドレン配管用 | | |
|----------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|-----------------------|
| | パイプカバー (大) | パイプカバー (小) | バンド | パイプカバー (大) | パイプカバー (小) | ドレンホース ホース クランプ |
| 8 個 | 1 個 | 1 個 | 4 本 | 1 個 | 1 個 | 1 個 |
| 室内ユニット 吊下げ用 | ガス管断熱用 | 液管断熱用 | パイプカバー 固定用 | ドレンシケット 断熱用 | ドレンシケット 断熱用 | ドレン配管 接続用 |

②室内ユニットの据付場所の選定

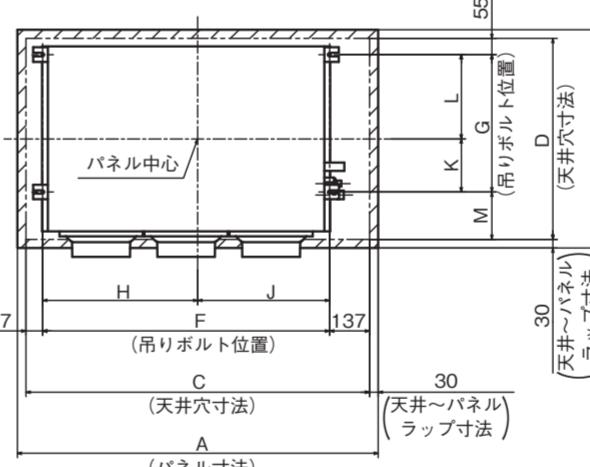
- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが 3m を超えると暖気が天井にこもりますので、サークュレーターの併設をご指導ください。
 - ・人感センサを取付ける場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知にくくなります。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレンが確実にできる所。ドレン勾配のどれど所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害物のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショットサーフィン所。
 - ・侵入外気の影響のない所。・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が 28°C 以下。かつ、相対湿度 80% 以下の所。
 - ・室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管・ドレン配管にさらに 10~20mm の断熱材を取付けてください。
 - ・テレビ、ラジオより 1 m 以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・室内ユニット真下に食品、食器やパソコン、サーバー、医療機器等濡れて困るものを持かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりもだけ離れた所。
 - ・ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
 - ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落すによるケガの原因になります。
 - ③ワイヤレス機種を 2 台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を 6m 以上離して設置してください。
 - ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を 4m 以上離して設置してください。

3

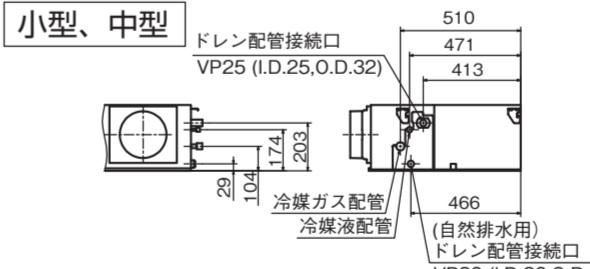
③据付け前の準備

- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
- 吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm 以上又は天井ふとろ高さ 700mm 以上の場合は耐震プレースを設置してください。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブへ吊り下げる場合
- 吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm 以上の場合は耐震プレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を 4 組現地にて手配してください。

サイレントパネルと組合せの場合



| A | B | C | D | F | G | H | J | K | L | M |
|---------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| 小型 1040 | 750 | 980 | 690 | 786 | 472 | 433 | 353 | 182.5 | 289.5 | 162.5 |
| 中型 1240 | 750 | 1180 | 690 | 986 | 472 | 533 | 453 | 182.5 | 289.5 | 162.5 |
| 大型 1658 | 850 | 1598 | 790 | 1404 | 530 | 742 | 662 | 190.5 | 339.5 | 204.5 |

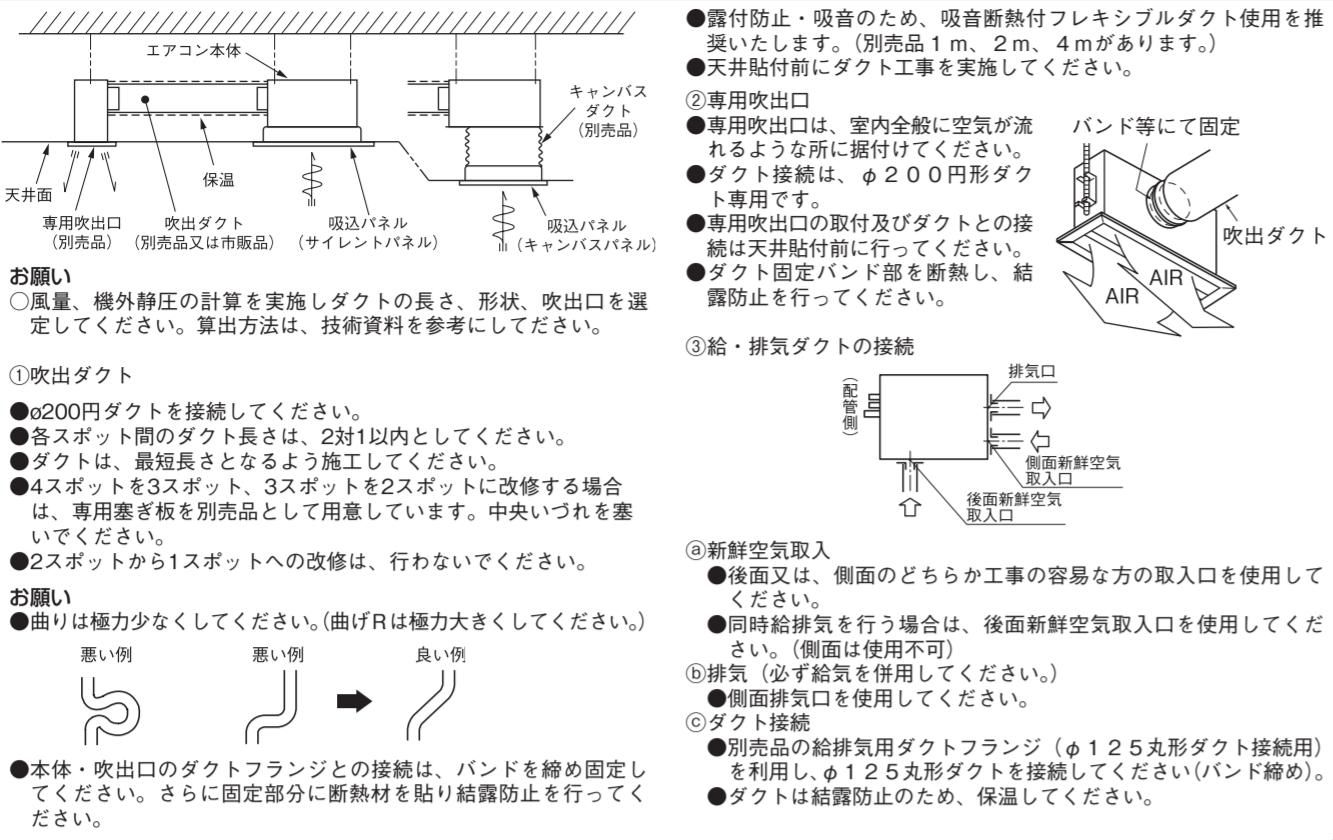


④室内ユニットの据付け

作業手順

1. 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは 4 本使用してください。
4. ご使用のパネルに合うように、室内ユニット吊り込み高さを調節してください。
5. 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使って確認してください

⑤ダクト工事



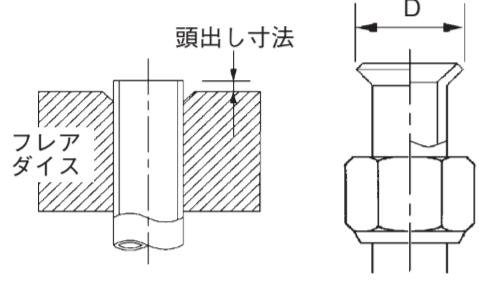
⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。

既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。

1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。



| 配管径 d mm | 配管の最小肉厚 mm | フレア加工頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） | フレア外径 D mm | フレアナット締付けトルク N·m |
|----------------|------------|------------------------------|-------------|------------------|
| R32用 R410A用 | 0.8 | 0 ~ 0.5 | 8.9 ~ 9.1 | 14 ~ 18 |
| | 0.8 | | 12.8 ~ 13.2 | 34 ~ 42 |
| | 0.8 | | 16.2 ~ 16.6 | 49 ~ 61 |
| | 1 | | 19.3 ~ 19.7 | 68 ~ 82 |
| | 1.2 | | 23.6 ~ 24.0 | 100 ~ 120 |

2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410用のフレア加工をしてください。

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無鋼管（C 1220T、J I S H 3300）をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コントами）の付着がないことを確認してください。

冷媒配管の内部にコントамиの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

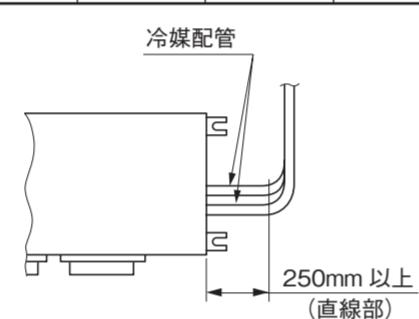
●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。

室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともう付けする直前までシリルしてください。

冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。



お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とて行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

5

⑥冷媒配管のつづき

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取り外してください。

※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けで外してください。

(このとおりガスが出ることがあります。異常ではありません。)

●フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかる場合があります。)

2. 液管、ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。

※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。

また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。

※フレア接続は、以下のように行ってください。

•フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の総付力で締めてください。

3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締めてください。

●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

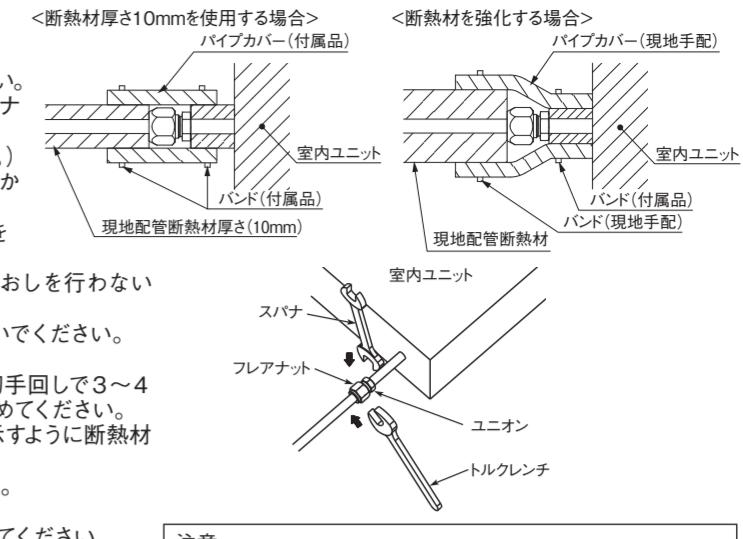
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。

●ガス側配管は耐熱120℃以上のものを使用してください。

●高湿度露点回りで使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。

室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部潤滑摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあります。ユニオンねじ部、又はフレア外側への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとするごとく。

⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。

不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。

室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように、確実に施工してください。

●水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。

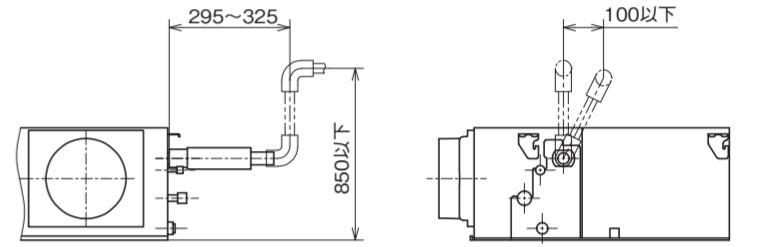
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。

●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。

試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンアップする場合

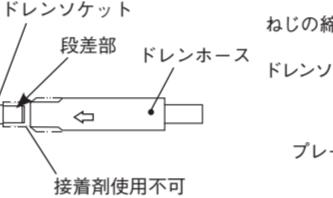
●ドレン配管の出口高さは、室内ユニット下面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



作業手順

1. 付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度のところに取付け、ねじの締め代が5mm程度となるまで締込んでください。

●接着剤使用不可



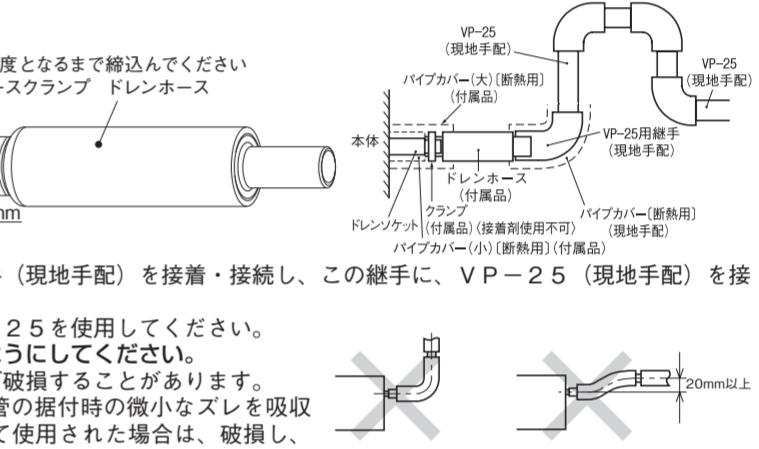
2. ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続してください。

※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。

●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。

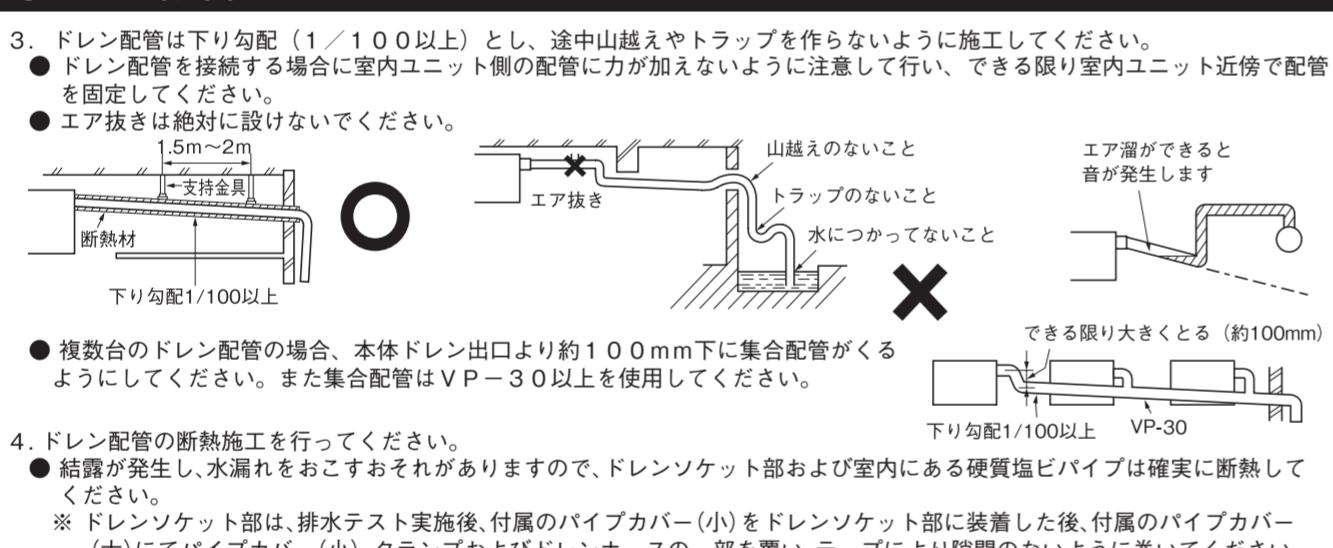
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。

●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



6

⑦ドレン配管のつづき



ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。

●暖房期の据え付けの際にも必ず実施してください。

●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。

注: 水を注入する際は、注水ホースを50mm位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)

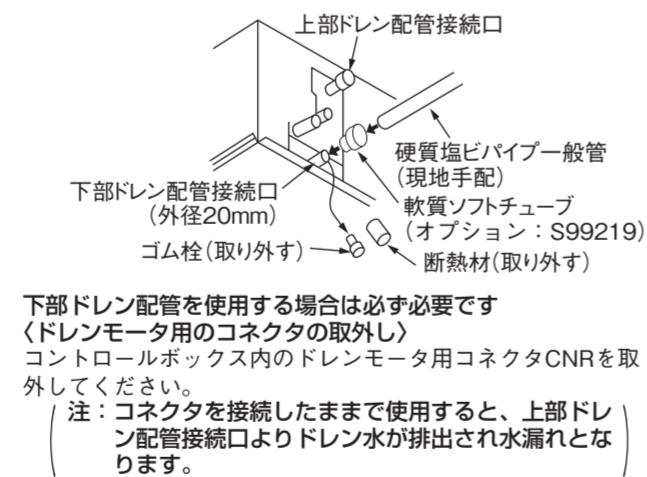
2. ドレン排水しているか排水口部で確認ください。

※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。

3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。

下部ドレン配管工事要領 [配管接続]

ドレン配管に下り勾配（1/50～1/100）が可能な場合 下図要領にて下部ドレン配管接続



⑧電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。

●電源配線と通信配線は同一経路通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になります。

●D種接地工事を必ず行ってください。

●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

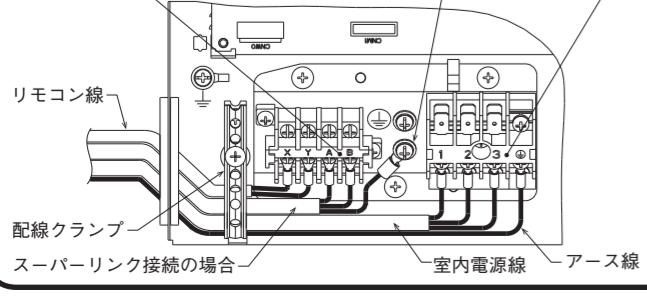
1. 電装箱の蓋（ねじ2本）を取外してください。

2. 各配線を室内ユニットに入れ、端子台に確実に接続してください。

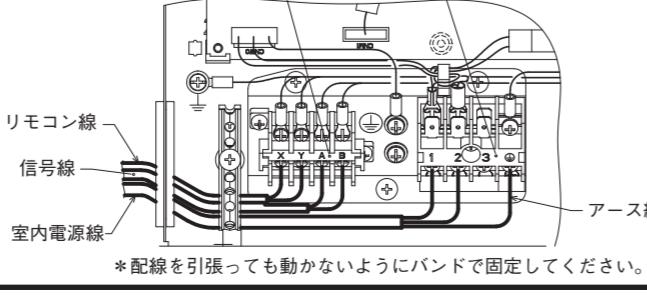
3. 各配線をクランプで固定してください。

4. 取外した部品を元通りに取付けください。

シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



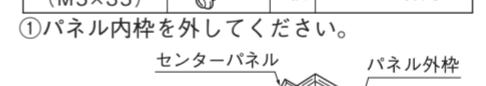
7

⑨パネルの取付

サイレントパネルの場合

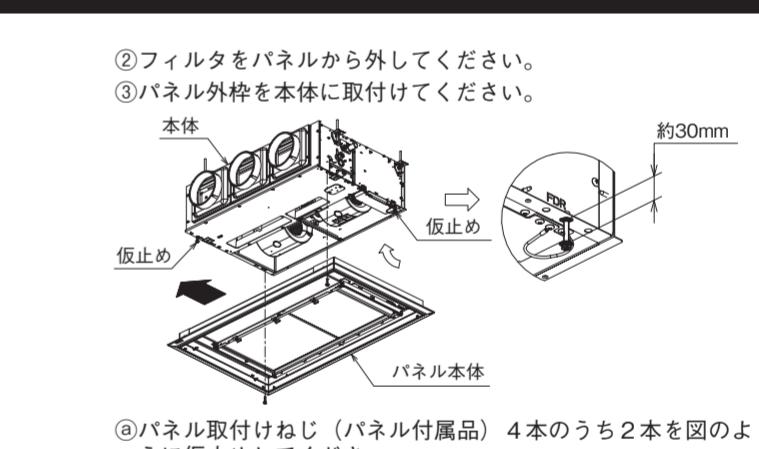
<付属品>

①パネル内枠を外してください。



②フィルタをパネルから外してください。

③パネル外枠を本体に取付けてください。



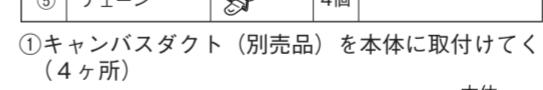
キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付けにはキャンバスダクト（別売品）が必要です。

<付属品>

| | | |
|----------------|----|------------|
| ① 丸小ねじ (M5×35) | 4個 | パネル固定 |
| ② 丸小ねじ (M5×16) | 8個 | キャンバスダクト固定 |
| ③ 丸小ねじ (M5×25) | 4個 | チェーン固定 |
| ④ ホルダー | 4個 | |
| ⑤ チェーン | 4個 | |

①キャンバスダクト（別売品）を本体に取付けてください。（4ヶ所）



②セントラーパネルを上部に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。

⑩機外静圧設定

ECOタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。

定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。

店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

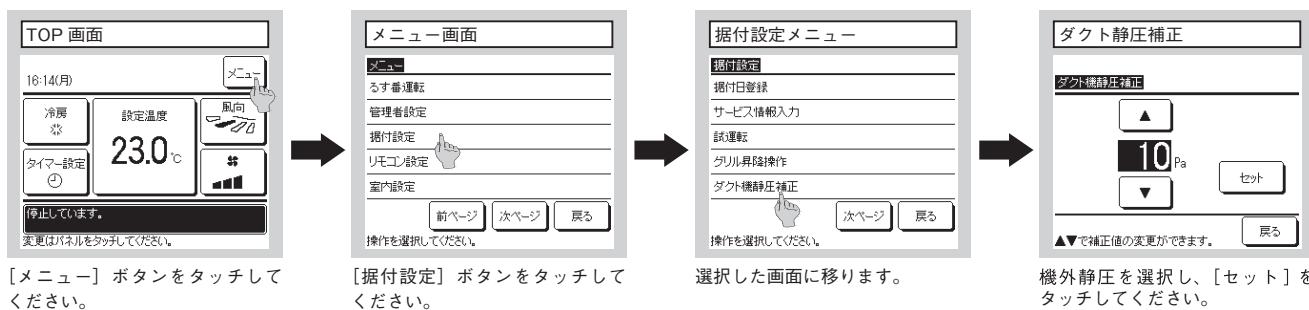
①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。

②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。

③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。

詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。

風量特性については、技術資料を参照ください。



注意

- ・RC-DX2 以降の ECOタッチリモコン以外からは設定できません。

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

リモコン設定時の有効機外静圧 (Pa) ／部の設定は使用範囲外になります。

| リモコン設定 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 | 100 |
|----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 標準パネル | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 | 100 |
| 天井リターン | 小型 | 15 | 25 | 35 | 45 | 55 | 65 | 75 | 85 | 95 |
| | 中型・大型 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 | 100 |
| 1スポット塞ぎ※ | 中型 | / | / | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 |
| | 大型 | / | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 |

※中型(3スポット)を2スポット、大型(4スポット)を3スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板(HA06916)を用意しています。両端のスポットはふさがないでください。また小型(2スポット、1スポット)に塞ぎ板を使用しないでください。

⑪室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

| チェック項目 | 不良の場合 | チェック欄 |
|--------------------------------|----------|-------|
| 室内外ユニットの取付けはしっかりとっていますか。 | 落下、振動、騒音 | |
| ガス漏れ検査は行いましたか。 | 冷えない | |
| 断熱は完全に行いましたか。 | 水漏れ | |
| ドレン排水はスムーズに流れていますか。 | 水漏れ | |
| 電源電圧は本体の銘板と同じですか。 | 運転不能・焼損 | |
| 誤配線・誤配管はありませんか。 | 運転不能・焼損 | |
| アース工事はされていますか。 | 漏電時危険 | |
| 配線の太さは仕様通りですか。 | 運転不能・焼損 | |
| 室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。 | 冷えない | |
| 機外静圧設定は完了していますか。 | 水漏れ、冷えない | |

⑫店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組み合わせにより下表の通り室内ユニット容量が自動認識されます。機種名銘板の機種容量に○印を付けてください。

| 室内ユニット | 室内ユニット1台接続 | | | | | | | | | | 2台接続 | | | | | 3台接続 | | 4台接続 | | |
|----------|------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|------|-----|------|-----|-----|
| | 室外ユニット | 40 | 45 | 50 | 56 | 63 | 80 | 112 | 140 | 160 | 80 | 112 | 140 | 160 | 224 | 280 | 160 | 224 | 224 | 280 |
| FDRZP56 | P40 | P45 | P50 | P56 | | | | | | | P40 | | | | | | P50 | | P56 | |
| FDRZP63 | | | | | P63 | | | | | | P56 | | | | | | | | | |
| FDRZP80 | | | | | | P80 | | | | | | P71 | P80 | | | | P80 | | P71 | |
| FDRZP112 | | | | | | | P112 | | | | | | | | P112 | | | | | |
| FDRZP160 | | | | | | | | P140 | P160 | | | | | | P140 | | | | | |

天埋力セテリア形 サイレントパネル据付説明書

PJG012D016

ユニット本体の据付説明書と共に読みください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- 誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に【警告】の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。【○】絶対に行わない 【①】必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などを渡していただくよう依頼してください。

⚠️ 警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。!
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。!
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。!
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。!
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。!
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。!
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。!

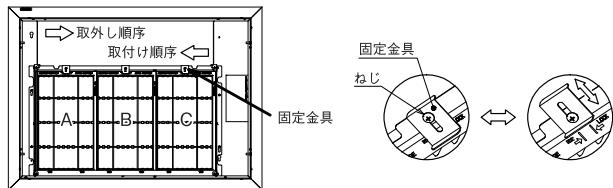
① 据付けのまえに

- ・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- ・下記の付属品を確認してください。

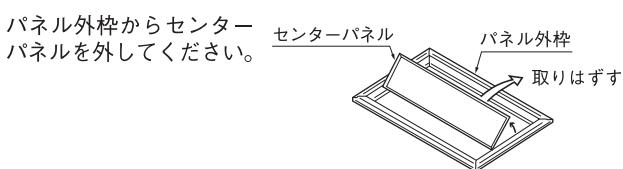
| 名称 | 個数 | 備考 |
|---------------|----|--------|
| 丸小ねじ M5×35 | 4個 | パネル固定用 |

③ フィルタの取外し

1. 固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2. 図の取外し順序に従って取外してください。
(A⇒B⇒Cの順)

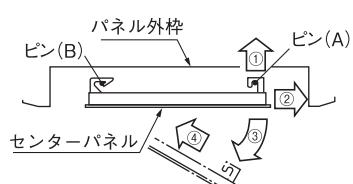


② センターパネルの取外し



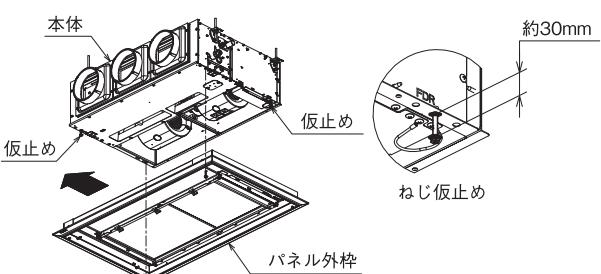
〈センターパネルの外し方〉

1. 矢印①→②の順でピン(A)より外してください。
2. 矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。



④ パネルの取付け

1. パネル取付けねじ（パネル付属品）4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
2. パネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印（←）の方向へスライドさせ仮止めしてください。
注）パネル外枠の装着には方向性があります。図の方向で取付けてください。
3. 仮止めしたねじ及び残りのねじ（2本）を締付けてください。



⑤ フィルタの取付け

- 1.③項に示す取付け順序に従って取付けてください。
(C⇒B⇒Aの順)
- 2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

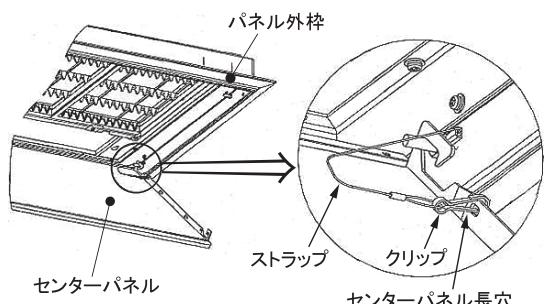
⑥ センターパネルの取付け

- ②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取り付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注) クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



PJG012D016

天埋力セテリア形 キャンバスパネル据付説明書

PJG012D015

ユニット本体の据付説明書と共に読みください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- 誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に【警告】の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。○ 絶対に行わない ① 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などを渡していただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。!
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。!
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。!
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。!
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。!
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。!
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。!

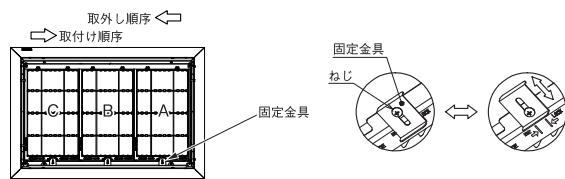
① 据付けのまえに

- ・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- ・下記の付属品を確認してください。

| No. | 名称 | 個数 | 備考 |
|-----|-----------------|----|------------------------|
| I | 丸小ねじ (M4×16) | 4個 | パネル固定用 |
| II | 丸小ねじ (M5×16) | 8個 | キャンバスダクト固定用 チェーン固定用 |
| III | 丸小ねじ (M4×25) | 4個 | ホルダー固定用 |
| IV | ホルダー | 4個 | |
| V | チェーン | 4個 | |
| VI | 断熱材 | 2個 | |

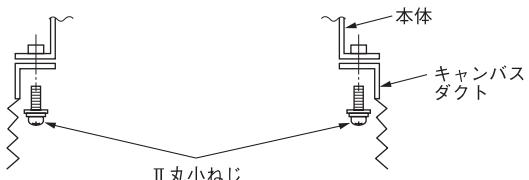
③ フィルタの取外し

- 1.固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
- 2.図の取外し順序に従って取外してください。
(A⇒B⇒Cの順)

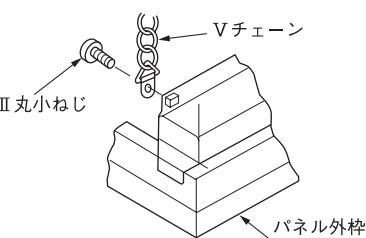


④ パネルの取付け

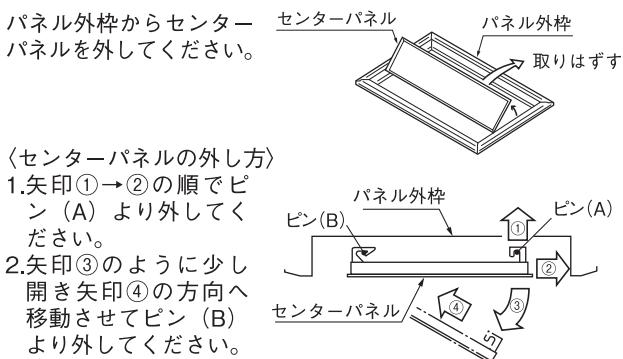
- 1.キャンバスダクト（オプション品）を本体に取付けてください。（4ヶ所）



- 2.パネル外枠にチェーンを取付けてください。（4ヶ所）

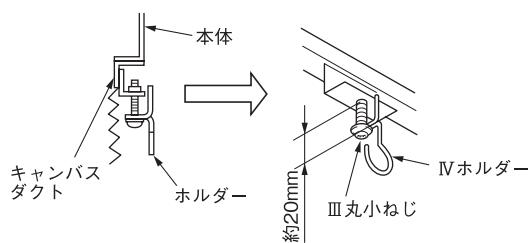


② センターパネルの取外し

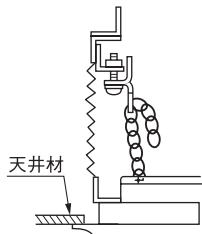


④ パネルの取付けの続き

- 3.パネル外枠を取付けてください。
i.ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。(4ヶ所)

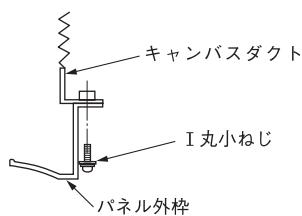


- ii.パネル外枠のチェーンをホルダーに引掛けてください。



注) チェーンを引掛ける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

- iii.パネル外枠を天井材と密着するまで i 項のIII丸小ねじにより吊り上げてください。
iv.キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。(4ヶ所)



⑤ フィルタの取付け

- 1.③項に示す取付け順序に従って取付けてください。
(C⇒B⇒Aの順)
2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

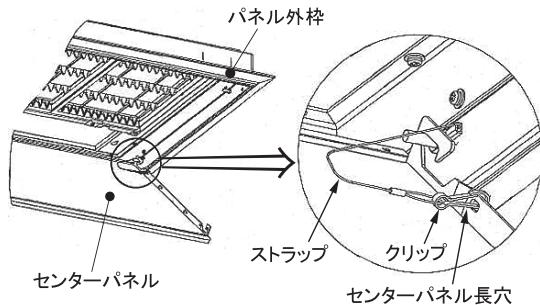
⑥ センターパネルの取付け

- ②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

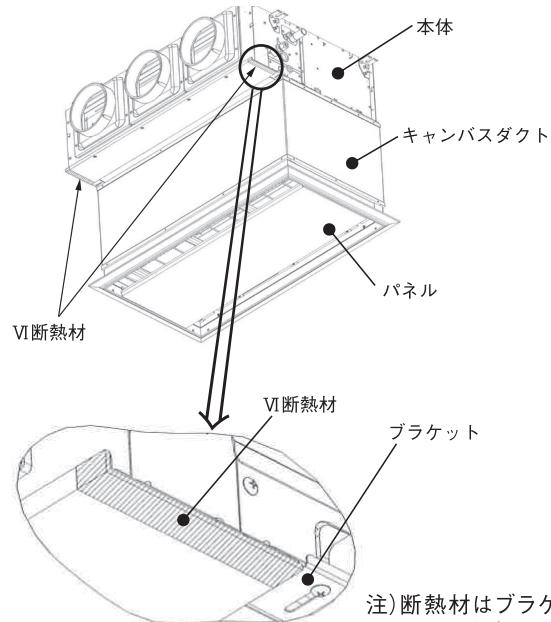
センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取り付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注) クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



⑧ 断熱材の貼付け

本体の下記箇所に断熱材を貼付けてください。(2ヶ所)



注) 断熱材はブラケットにかかるないように貼付けてください。

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

PSC012D115

201903



安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。

安全のため必ずお守りください。

●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●△警告・△注意の意味

| | | | |
|-----|--|-----|-------------------------------|
| △警告 | 守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。 | △注意 | 守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。 |
|-----|--|-----|-------------------------------|

●ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。①絶対に行わない ②必ず指示に従い行う

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力を伝わらないように固定する。

接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形し、カバーを確実に取付ける。

カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。

ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

●修理は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。

修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。

据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。

点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。

感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

●アース（接地）を確実に行う。

アース線は、ガス管、水管道、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。

漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極遮断するブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。

不適切な容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。

針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。

漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。

また、異なるサイズの単線またはより線を併用しない。

端子台のねじゆみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。

必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止をしない。

火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切り換え

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切り換え可能です。（□は工場出荷時の設定）

| スイッチNo. | 制御内容 |
|---------|--|
| SW1 | 室内アドレス(1位) |
| SW2 | 室内アドレス(2位) |
| SW5-1 | 親／子切換(ブルーラ／子機設定) |
| SW5-2 | 親／子切換(ブルーラ／子機設定) |
| SW6-1～4 | 機種容量 ON 運転チェック・ドレンポンプ試運転 OFF 通常運転 ON IBSL通信仕様固定 OFF 新SL/IBSL通信仕様自動判別 SW7-3 室内アドレス(100位) |

※注1：集中制御機器接続時の場合

通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。

旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ、ガスピートポンプ M7 シリーズ以前
新 SL：ビル空調 3LX シリーズ、ガスピートポンプ M8 シリーズ以降
SW7-2 が OFF(工場出荷設定)の場合は、通信仕様(新 SL / 旧 SL)を自動判別します。

旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW7-2 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴、制限は室内ユニット付属の説明書をご覧ください。

②リモコンの取付け（別売部品）

●取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所

○湿気の多い所、水が飛散する所

○油の飛沫や蒸気が直接触れる所

○発熱器具に近い所

○取付け面が発熱・結露する所

リモコン取付け・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。(現地手配)
③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

100～200m以内 ···· 0.5mm²×2心

300m以内 ···· 0.75mm²×2心

400m以内 ···· 1.25mm²×2心

600m以内 ···· 2.0mm²×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離して下さい。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

複数リモコンによる親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

①リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。

同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内ユニットの基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

④複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離して下さい。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。(極性はありません)

⑦複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑧複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑨複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑩複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑪複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑫複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○ 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知せる位置に取付けてください。

⑬複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

⑥リモコンからの操作・設定

A: eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。
B: eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C: インターネットよりユーティリティソフトを配信中です。

○: eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。
△: eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。
※1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

| 設定および表示項目 | 詳細内容 | eco タッチ | 標準 リモコン |
|------------------|--|---------|---------|
| 1. リモコンネットワーク | | | |
| 1 複数室内機制御 | リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。 | ○ | |
| 2 親子リモコン設定 | リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。 | B | ○ |
| 2.TOP 画面・SW 操作 | | | |
| 1 メニュー | 制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。 | A | |
| 2 運転モード | 冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。 | A | ○ |
| 3 設定温度 | 室温を 0.5°C 単位で設定します。 | A | ○ |
| 4 風向 | 風向を設定します。おまかせ気流の有効／無効を設定します（FDK の場合）。 | A | △ |
| 5 風量 | 風量を設定します。 | A | ○ |
| 6 タイマー設定 | タイマー運転を設定します。 | A | ○ |
| 7 運転／停止 SW | 運転を開始します。／停止します。 | A | ○ |
| 8 F1 スイッチ | ※1 F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 | A | |
| 9 F2 スイッチ | ※1 F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。 | A | |
| 10 言語切換 | ※3 リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語／日本語 ドイツ語／フランス語／スペイン語／イタリア語／オランダ語／トルコ語／ポルトガル語／ロシア語／ポーランド語／中国語 | A | |
| 3. 便利機能 | | | |
| 1 フリーフロー設定 | 各ルーバーの可動範囲（上限位置—下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置・右限位置も設定します。 | A | △ |
| 2 エアフレックス（風よけ）設定 | ※1 ・ 詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効／無効を設定します。 エアフレックスパネル組合せの場合 ・ ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中／停止中）を切換えます。 | A | |
| 3 タイマー設定 | 時間入タイマー 停止後、運転させたい時間を設定します。 ・ 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定できます。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。 時間切タイマー 運転後、停止させたい時間を設定します。 ・ 1 ~ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定できます。 時刻入タイマー 運転開始時刻を設定します。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定できます。 ・ 1 回のみ／毎日の切換ができます。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。 時刻切タイマー 運転停止時刻を設定します。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定できます。 ・ 1 回のみ／毎日の切換ができます。 タイマー設定内容確認 各タイマーの設定内容を一覧できます。 | A | △ |
| 4 おこのみ設定 | ※1 おこのみ設定 運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定ができます。 | A | |
| 5 ウィークリータイマー | 1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・ 1 日最大 8 パターンまで設定できます。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定できます。 ・ 祝日および臨時休業など、休日設定ができます。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。 | A | △ |
| 6 るす番運転 | お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温／低温にならないように温度を保ちます。 ・ 外温制御温度により冷房／暖房を行います。 ・ 設定温度・風量の設定ができます。 | A | |
| 7 換気 | 換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・ 換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転／停止ができます。 | A | ○ |

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

| 設定および表示項目 | 詳細内容 | eco タッチ | 標準 リモコン | |
|---------------|---|--|---------|---|
| 8 言語切換設定 | リモコンに表示する言語を選択します。 ・ 選択できる言語は下記です。 英語／日本語 ドイツ語／フランス語／スペイン語／イタリア語／オランダ語／トルコ語／ポルトガル語／ロシア語／ポーランド語／中国語 | A | | |
| 9 室外静音設計 | ※3 室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・ 室外静音運転の開始・停止を設定します。 | A | | |
| 10 見てみて | 室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・ 室内ユニット・室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。 | A | | |
| 11 消費電力量表示 | 今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・ 室内ユニット・室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。 | A | | |
| 4. 省エネ設定 | 管理者パスワード | | | |
| 1 切忘れ防止タイマー | 運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・ 設定時間は 30 ~ 240 分（10 分単位）まで選択できます。 ・ 設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。 | A | △ | |
| 2 ピークカットタイマー | 能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・ 1 日最大 4 パターンまで設定できます。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定できます。 ・ 能力制限率は 0.40 ~ 80%（20%単位）から選択できます。 ・ 祝日および臨時休業など、休日設定ができます。 | A | | |
| 3 設定温度自動復帰 | 設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・ 暖房モード／冷房モード他、各々設定できます。 ・ 設定時間は 20 ~ 120 分（10 分単位）まで設定できます。 ・ 設定時刻は 10 分単位で設定できます。 | A | △ | |
| 4 人感センサー制御 | ※1 人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。 | A | | |
| 5. お手入れ | | | | |
| 1 フィルタサインリセット | フィルタサインの解除 次回清掃日の設定 | A | | |
| 2 グリル昇降 | ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合 降下長設定 管理者パスワード ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合 | ラクリーナパネル／グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。 グリル昇降長を設定します。 ・ 0.1 ~ 4.0 m の範囲で設定できます。 ・ 設定長さは 0.1 m 単位で設定可能です。 ・ 接続室内ユニット毎に設定できます。 ダスト回収後ダスト回収タimerをリセットします。 | A | ○ |
| 3 お掃除パネル設定 | お掃除自動設定 清掃時間帯設定 清掃間隔設定 ダスト回収設定 ブラシ清掃回数設定 | 自動清掃の有効／休止を設定します。 自動清掃を開始する時間帯を設定します。 自動清掃する最小の間隔を設定します。 ダストの回収時期を設定します。 ブラシの清掃回数を設定します。 | A | |
| 6. ユーザ設定 | | | | |
| 1 初期設定 | 時刻設定 時刻表示設定 サーマータイム補正 コントラスト調整 バックライト ブザー音 運転ランプ輝度 | 現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ・ 80 時間以内の停電の場合、内蔵バッテリー電源の働きにより時計は動き続けます。 時刻表示のあり／なし、12 H／24 H、AM／PM 位置、を設定します。 現在時刻に対し、+1 時間の補正を行います。 液晶の濃度の調整を行います。 バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。 ブザー音のあり／なしを設定します。 運転ランプ輝度の調整を行います。 | A | △ |
| 2 管理者設定 | 操作制限設定 管理者パスワード | 操作の許可／禁止を設定します。 [運転／停止] [設定温度切換] [運転モード切換] [風向切換] [風量切換] [ハイパワー運転] [省エネ運転] [見てみて] [タイマー設定] [消費電力量表示] ※1 ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定] [グリル降下長設定] [ウィーカリータイマー設定] [言語切換設定] [ドラフト防止設定] ※1 | A | △ |

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

| 設定および表示項目 | 詳細内容 | eco タッチ | 標準 リモコン |
|----------------|---|---------|---------|
| 2. 管理者設定 | | | |
| 管理者パスワード | 室外静音タイマー 室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定できます。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定できます。 | A | △ |
| 設定温度範囲 | 設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。 | A | △ |
| 温度設定刻み切換 | 設定温度の刻み（0.5°C / 1.0°C）を設定します。 | A | |
| 設定温度表示切換 | 設定温度の表示の仕方を切り替えます。 | A | |
| リモコン表示設定 | リモコン名称、室内ユニット名を登録します。 室温表示のあり／なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり／なしを設定します。 | A | △ |
| 管理者パスワード変更 | 管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。 | A | |
| スイッチ機能変更 | ※1 F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] ※3 [ハイパワー運転] [省エネ運転] [室外静音制御] [るす番運転] [おこのみ設定運転] [おこのみ設定運転 2] [フィルタサインリセット] [グリル昇降] [消費電力量表示] | A | |
| 7. サービス設定 | | | |
| 1 据付設定 | 据付日登録 サービス情報入力 試運転 冷房試運転 ドレンポンプ試運転 お掃除試運転 ダクト機静圧補正 自動アドレス変更 親室内機アドレス設定 バックアップ制御 人感センサー設定 ※1 人感センサー付パネルの組合せの場合 グリル昇降操作 | B | |
| 2 リモコン設定 | リモコン親子設定 吸込センサー制御 リモコンセンサー リモコンセンサー補正 運転モード選択 設定温度単位 ファン速度 外部入力設定 上下ルーバー制御 | B | ○ |
| サービスパスワード | サービス情報入力 試運転 冷房試運転 ドレンポンプ試運転 お掃除試運転 ダクト機静圧補正 自動アドレス変更 親室内機アドレス設定 バックアップ制御 人感センサー設定 ※1 人感センサー付パネルの組合せの場合 グリル昇降操作 | B | △ |
| 3. サービス設定 | | | |
| サービスパスワード | 左右ルーバー制御 ※2 換気設定 停電補償 設定温度自動設定 風量自動設定 | B | |
| 4. サービス・メンテナンス | 風速設定 サービスパスワード 点検表示 異常履歴表示 異常時運転データ表示 定期点検リセット 室内設定保存 特殊操作 室内機容量表示 ※1 お掃除パネル点検 | B | |
| 5. 困ったときは… | 1 連絡先表示 2 サービスを依頼される前に Q & A | A | |
| 9. 点検表示 | 点検表示確認 | A | △ |
| 10. パソコン接続 | USB 接続 | C | |

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

| 設定および表示項目 | 詳細内容 | eco タッチ | 標準 リモコン |
|---------------|---|---------|---------|
| 2 リモコン設定 | 左右ルーバーの [固定位置停止] / [フリー停止] の切換ができます。 | B | |
| サービスパスワード | 換気ユニット組合せ制御が設定できます。 停電復帰した場合の制御内容を設定できます。 設定温度自動の有効／無効を選択できます。 風量自動の有効／無効を選択できます。 | B | |
| 3 室内設定 | 風速設定 サービスパスワード 外部入力 1 設定 外部入力 1 方式切換 外部入力 2 設定 外部入力 2 方式切換 暖房室温補正 吸込温度補正 冷房ファン制御 暖房ファン制御 プロスト防止温度 プロスト防止制御 ドレンポンプ運転 冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。 冷房ファン残留運転 暖房ファン残留運転 暖房ファン間欠 送風扇モード 外調機設定 運転モード自動設定方法を 3 種類から選択できます。 サーモ判定切換 風量自動切換 室内過負荷アラーム 外部出力設定 ※1 | B | |
| 4 サービス・メンテナンス | エアコン No. 表示 次回点検日 運転データ表示 点検表示 定期点検リセット 室内設定保存 特殊操作 室内機容量表示 ※1 お掃除パネル点検 | B | |
| 8. 困ったときは… | 1 連絡先表示 2 サービスを依頼される前に Q & A | A | |
| 9. 点検表示 | 点検表示確認 | A | △ |
| 10. パソコン接続 | USB 接続 | C | |

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。